

## 記録としての写真技法 実務で使えるテクニック



著者	:	小池 恒裕
定価	:	本体 2,000 円＋税
判型	:	A5 判 オールカラー
ページ数	:	124 ページ(本文 108 ページ)
ISBN	:	978-4-906929-58-0
発行	:	平成 29 年 5 月

### 著者 小池恒裕 プロフィール

警察や裁判所での写真技術関連の鑑識鑑定に協力。現在、警察大学校、警察学校、海上保安学校で記録写真の写し方について講師をつとめる。国際鑑識協会日本支部・日本鑑識学会理事。

### 内容

警察庁警察大学校、警視庁警察学校や海上保安庁海上保安学校で写真撮影技術を指導してきた著者が、その経験の集大成としてコンパクトなテキストとして完成させました。

今や、誰でも携帯電話やスマートフォンに付属しているカメラを携行している時代にあつて、記録された写真は真実を伝える手段となっています。また、裁判員裁判において、どんな分厚い供述調書より1枚の写真が裁判員に訴える力も持つ可能性もあります。このような時代であるからこそ、事実を客観的にとらえる撮影技術を身につけておくことが必要になっています。

本書では、事件・事故で遭遇するであろう被写体を鳥や花に置き換えて、裁判記録や訴訟上証拠となりうる写真撮影技法を、約 200 枚の写真を使って分かり易く解説しています。

警察や海上保安庁関係者のみならず、広く事実を記録する企業・団体の担当者に向けた、実務で使えるテクニック集です。

### 目次(抄)

I 記録としての写真システムを考 える	IV 画像の成り立ち	VIII 不利な撮影結果の考察
II 撮り方のキーワード 「画面の四隅」「一歩前進」	V 撮りにくい条件での撮影	IX 撮影機材の上手な活用ヒント
III 撮り方の正攻法	VI デジタルカメラならではのスペッ ク活用	X 写真画像の耐久保存 用語索引
	VII 忠実な色再現プリント	